図書館員のひみつの本棚　第１５１回

今月は哲学の本です。

『なぜと問うのはなぜだろう』　　ちくまプリマー新書
吉田　夏彦／著　ちくま書房　2017 年　756 円

＜お勧め年齢＞

乳幼児――　　低学年――　　中学年――　　高学年――　　中学生☆☆
高　校☆☆☆　　一　般☆☆

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

〈本の紹介〉

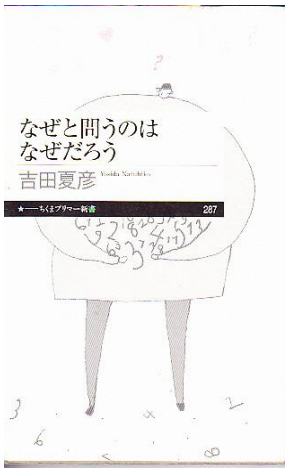
「哲学」という言葉を聞くと、何か難しいことのように感じませんか。では「科学」はどうでしょう。「科学」についてはいろいろと身近に感じることも多いのではないでしょうか。じつはこの「哲学」と「科学」という言葉、英語では「フィロソフィー」と「サイエンス」になりますが、以前はそれほど区別されずに「学問」という意味で使われていたそうです。でも、もちろん違いもあります。それは科学には答えられる領域に限度があり、そのさきを考える学問が哲学なのだそうです。

この本は、1977 年に小学生向けの哲学の本として執筆され、40 年の時を経て復刊されました。学問とは何かをやさしく教えてくれます。

〈子どもに手渡す時のポイント〉

大学で初めて現代哲学の講義を受け、担当教授の「学問とは人々の幸せを追求して発展してきた」という趣旨の話を聞き、これまでの学校の勉強が人間の幸福に結びついていることに初めて気が付き、それ以来学ぶことが楽しくなりました。

「なんのために勉強しなければいけないのか。」という疑問を抱いている生徒に、ぜひ手渡してもらいたいと思っています。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。